

事業名称	農業×ワーケーションによるウェルビーイングプログラム事業
事業主体名	遊士屋株式会社
連携先	クジラ株式会社 株式会社 YeeY
対象地域	三重県伊賀市
事業概要	空き家を活用したワーケーション施設の利用者と交流人口を増やすことを目的に、 <ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーション施設の開発 ・ウェルビーイングプログラムの開発・テストイベント実施 ・ウェルビーイングプログラムのPR ・ウェルビーイングに関するオンラインイベントの開催 ・サイト改修 を実施した。
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の盛んな地域における交流人口の増加、地域の活性化、空き家の利活用を促すことを目的とする。 ・心身のウェルビーイングに寄与するプログラムを提供するワーケーション施設やコンテンツ開発を実施する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーション環境の整備 ・ウェルビーイングプログラムの構築、検証 ・ウェルビーイングに関するオンラインイベントの動画アーカイブ化 ・サイト改修による上記成果の公開
成果の公表方法	Web サイトにて、 <ul style="list-style-type: none"> ・テストイベントの実施報告 ・ウェルビーイングに関するオンラインイベントの動画 ・空き家の利活用前後の様態 を公開する。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルビーイングプログラムを軸とした訴求 ・ウェルビーイングプログラムの改善 ・ワーケーション、ウェルビーイングプログラムのターゲットの絞り込み ・農園の繁忙期を考慮したオペレーションの確立

1. 事業の背景と目的

これまで三重県伊賀市にて苺の生産から卸売・販売までを一気通貫で行う事業を展開する傍ら、精神疾患や各種依存症などさまざまな生きづらさを抱えた人に対し、農業を通じて心身の回復・成長を促し、農作業における就労支援をすることで、本人の社会復帰支援活動を続けてきた。

一方、日本の農業は高齢化や担い手不足が進んでおり、農業を継続していくことが困難となっている地域が増加している。

本事業では農業の盛んな地域における交流人口の増加、地域の活性化、空き家の利活用を促すことを目的に、心身のウェルビーイングに寄与するプログラムを提供するワーケーション施設やコンテンツ開発を実施。長期的には、農業の盛んな地域における交流人口の増加、地域の活性化、空き家の利活用を促す汎用的なモデルの構築に繋げていく。

2. 事業の内容

(1) 事業の概要と手順

農園という環境とワーケーション機能を掛け合わせ、多くの人にウェルビーイングを高める体験を下記のように提供する。

① ワケーション施設の開発

周辺の空き家を調査・利用し、ワーケーション利用者呼び込むための仕事環境を整える。

② ウェルビーイングプログラムの開発・テストイベント実施

専門家の協力を得て、農業を通じたウェルビーイングの体験プログラムを開発、テストイベントを実施。

③ ウェルビーイングプログラムのPR

ウェルビーイングプログラムのPRをSNSで実施。

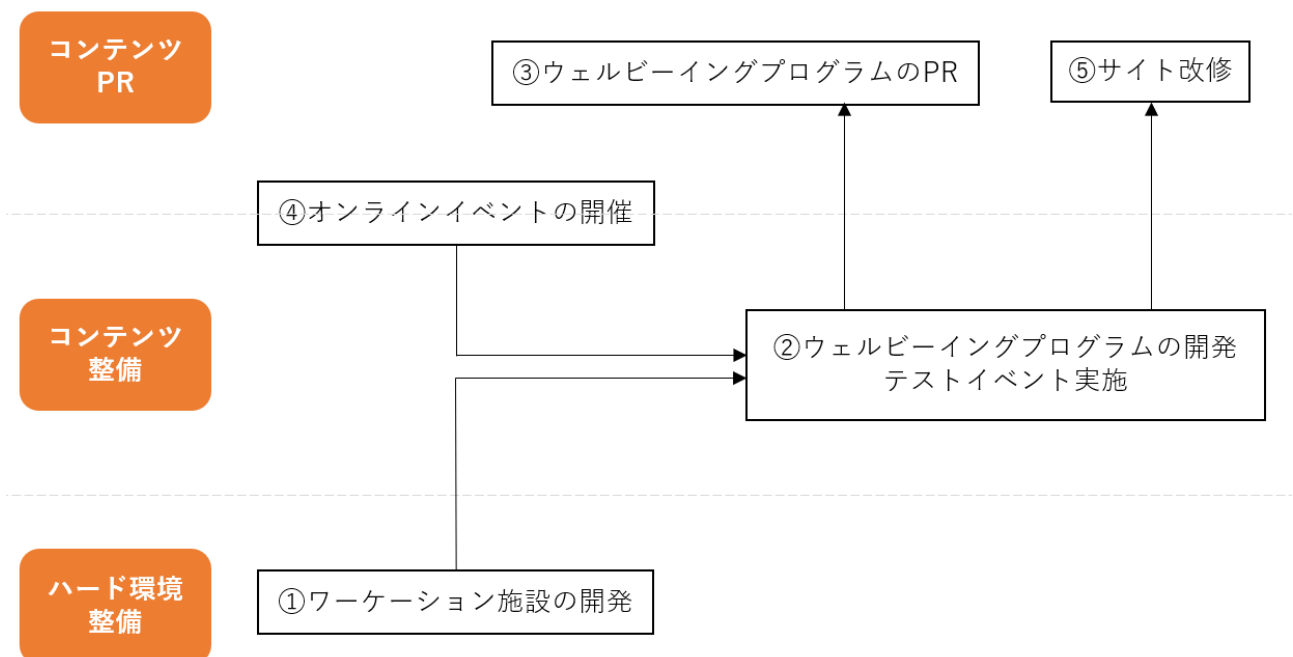
④ オンラインイベントの開催

ウェルビーイングの理解を深めるためのオンラインイベントの開催、アーカイブをSNSにて公開。

⑤ サイト改修

ウェルビーイングプログラム、④のオンラインイベントについて紹介するページをWebサイト上に追加する。

▼図1 取り組みフロー図



▼表 1 進捗状況表

ステップ	事業項目	具体的な取組内容	令和4年度										
			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
ハード環境整備	①ワーケーション施設の開発	空き家調査		■	■								
		ワーケーション施設 企画・設計		■	■	■							
コンテンツ整備	②ウェルビーイングプログラムの開発・テストイベント実施	ウェルビーイングプログラムの企画				■	■						
		テストイベント企画						■	■				
		テストイベント告知							■	■			
		テストイベント実施								■	■		
コンテンツPR	③ウェルビーイングプログラムのPR	ウェルビーイングプログラムのPR									■	■	
		オンラインイベントの告知						■	■				
	⑤サイト改修	オンラインイベントの開催						■	■				
		ヒアリング							■	■			
		デザイン								■	■		
		コーディング									■	■	
		挙動確認									■		

▼表 2 役割分担表

具体的な取組内容	担当組織(担当者別)の業務内容	担当組織(担当者)
ワーケーション施設の開発	空き家調査	クジラ株式会社(矢野浩一)
	ワーケーション施設 企画・設計	クジラ株式会社(矢野浩一)
		遊士屋株式会社(園田有哉)
ウェルビーイングプログラムの開発・テストイベント実施	ウェルビーイングプログラムの開発	株式会社YeeY(渡邊春花)
		遊士屋株式会社(園田有哉)
	テストイベント実施	遊士屋株式会社(宮澤大樹)
ウェルビーイングプログラムのPR	ウェルビーイングプログラムのPR	遊士屋株式会社(宮澤大樹)
オンラインイベントの開催	オンラインイベントの開催	株式会社YeeY(渡邊春花)
		遊士屋株式会社(園田有哉)
サイト改修	サイト改修	BOLDROOTS(梁太紀)

(2) 事業の取組詳細

① ワーケーション施設の開発

(i) 空き家の調査

農園近辺の空き家の調査をクジラ株式会社に依頼して実施。

▼オリエンテーション

空き家の調査にあたって、クジラ株式会社と方針をすり合わせる初回オリエンテーションを実施。以下の内容について確認した。

- ・ 空き家調査の目的の確認
- ・ 活用したい空き家の条件の確認
- ・ 農園周辺の住宅地の情報共有

▼空き家調査

オリエンテーションにてすり合わせた条件をもとに、空き家の目視での確認と近隣住民および農園スタッフに聞き込みを実施。合計 5 軒の空き家を把握した。建物の状況などを加味し、1 軒の空き家活用につながった。

▼写真1 活用につながった空き家



▼写真2 調査で把握した空き家



(ii) ワークーション施設 企画・設計

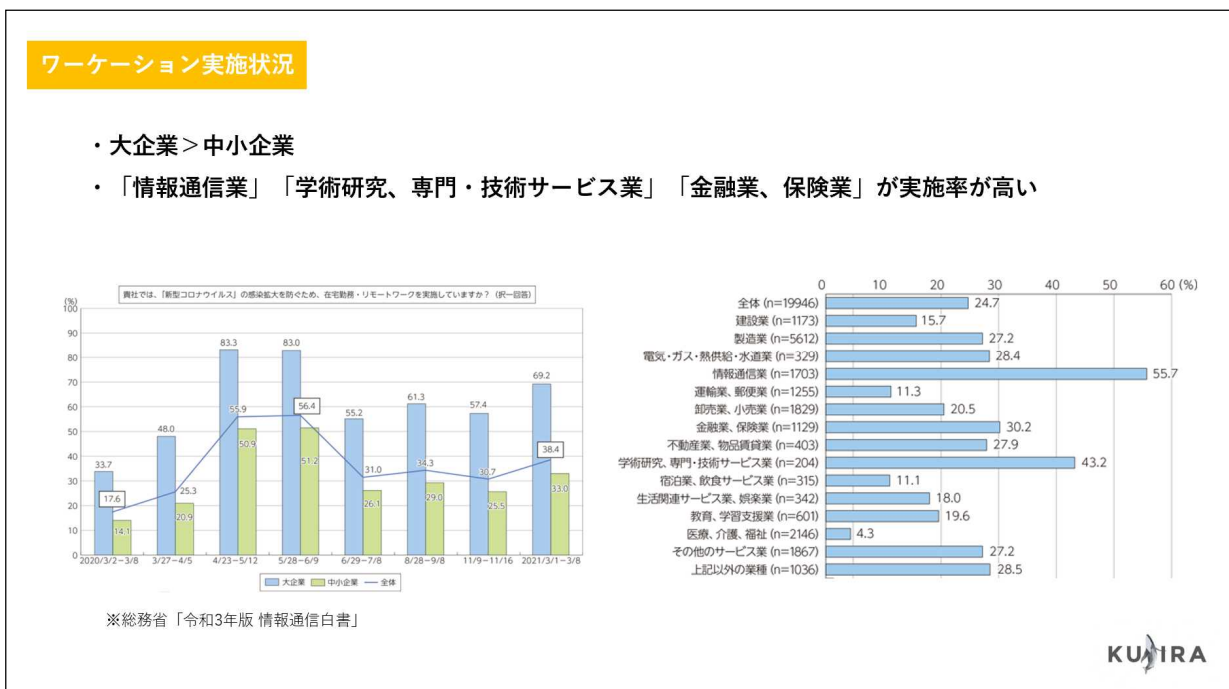
▼ワークーション利用者のターゲットの議論

空き家を活用したワークーション施設を開発するにあたって、ターゲットとする利用者をゼロベースで議論した。農産漁村地域へのワークーション先としての滞在を望む旅行者が20代、30代に多いという調査結果を踏まえ、

- ・金曜日、土曜日の週末に1泊2泊の利用、または日帰りでの利用
- ・伊賀より約2時間圏内の近畿、中部エリア在住
- ・「情報通信業」従事者など、ワークーション実施率が高い業種
- ・立場や金銭的にゆとりが生まれるであろう20代後半～30代

がターゲットになり得ると仮説を立てた。

▼写真3 ワークーション実施についてのクジラ株式会社による参考資料



一方で、ワークーション利用者にターゲットを絞ると利用者が限定されることから、ウェルビーイングプログラムを目的とした日帰り、宿泊利用も想定することとした。

▼優先順位の整理

ワークーション施設としての機能、弊社の予算、受け入れスケジュールを考慮して本年度は、

- ・外部、居間、寝室を優先した整備
 - ・改修は弊社のメンバーによるDIY
- を実施することに決定した。

▼ワークーション施設の設計

上記の優先順位を踏まえ、ワークーション施設のデザインをクジラ株式会社に提案いただいた。

▼写真4 デザイン案 プレゼン資料



(iii) 空き家のDIY

クジラ株式会社に提示いただいたデザイン案とDIYに必要な資材、手順をもとに弊社のスタッフでDIYを実施。

▼建物外部

ペンキを用いて塗装し、ポスト、サイン、照明を設置した。

▼写真5 建物外部



改修前



改修後

▼居間

湿気のある空き家だったため、吸湿性のある漆喰を用いて壁面を左官。床の間はフローリングにしてワークスペースを設けた。また、畳の表替えを実施した。

▼写真6 居間



改修前



改修後

▼寝室

居間と同様に吸湿性のある漆喰を用いて壁面を左官。ベッドを新設した。

▼写真 7 寝室



改修前



改修後

②ウェルビーイングプログラムの開発・テストイベント実施

(i) ウェルビーイングプログラムの開発

株式会社 YeeY にウェルビーイングプログラムの開発を依頼した。

▼ウェルビーイングについての説明

株式会社 YeeY の担当者より、ウェルビーイングの定義、ウェルビーイングの各種効果、ウェルビーイングを高めるための要素、ウェルビーイング×ワーケーションの事例などの説明を受けた。

▼作業内容のヒアリング

弊社農園での取り組みや作業工程について説明し、質問を受けながら作業工程を細分化した。各工程におけるやりがいや、充実感のある瞬間について議論を重ねた。

表 3 作業工程を細分化した際のリスト

カテゴリ	作業工程	初心者が触れるか	所感/備考
手入れ	ランナー引き	○	いわゆる農作業
	下葉かき	○	いわゆる農作業
	玉出し	△	果実を傷つけるおそれ
	葉上げ	○	いわゆる農作業
	摘花/摘蕾	△	果実を傷つけるおそれ
	ボネ撤去	○	いわゆる農作業
	草引き	○	いわゆる農作業
収穫	収穫	△	果実を傷つけるおそれ
選別/梱包	選別	×	品質に関わるためNG
	フィルム留め	×	品質に関わるためNG
	仕分け	×	品質に関わるためNG
	梱包	×	品質に関わるためNG
	出荷管理	×	品質に関わるためNG
	上記アシスタント	△	可。お客様とのつながりを感じられる
栽培管理	水やり	○	協力が必要な作業。
	灌注	△	長期滞在なら可。
	防除	×	品質に関わるためNG
	温度管理	×	品質に関わるためNG
	ハウス開閉	○	協力が必要な作業。

▼作業とウェルビーイングを高める要素との紐づけ

ヒアリングで明らかとなった作業工程およびやりがい等に基づき、ウェルビーイングを高める5つの要素との結びつけを行った。

▼プログラムの設計

大阪など都市部からの来訪が多くなることを想定し、移動を踏まえ午前中は遅めの開始となるようなプログラム内容とした。

▼表4 設計したプログラム

時間	PERMA Model	プログラム
- 11:00	-	農園集合
11:00 - 12:00	-	プログラムの趣旨説明、PERMAの測定
12:00 - 13:00	R	休憩、昼食
13:00 - 14:00	P/M	農園全体の案内 / 農福連携や気候変動に関する研究の紹介
14:00 - 15:30	P/E/R/A	農作業
15:30 - 16:00	R/A	作業振り返り、PERMAの測定

(ii) テストイベント実施

2023年1月にテストイベントの実施を予定していたが、積雪により来訪が困難となったため中止とした。本事業の実施日程を踏まえ、その後、関係者で以下の内容についてテストを実施。

- ・プログラムの趣旨説明、PERMAの測定
- ・農園全体の案内 / 農福連携や気候変動に関する研究の紹介
- ・作業
- ・作業振り返り、PERMAの測定

参加者の声として、以下のような感想、意見があった。

「気候変動に対して初めて知ることがたくさんあった。私たちが楽しんでいる日常の食が今後も約束されたものではないこと、そこに対してアプローチをすることの素晴らしさを感じて、農業に対する見方が変わった。その後の農作業にも身が入って、これが Meaning や Engagement なんだと思った。」

「農福連携と聞いてイメージしていたものと、実際の体験がポジティブな意味で大きく異なっていました。品質をあげるためのさまざまな気遣いやこだわりについて教えてもらいながら、他の参加者や農園の方々と協力して進めていくプロセスがとても心地よかったです。」

「外は異常に寒かったと思えば、ビニールハウスの中はとても暑かったりと温度変化が大きく、服装などが難しいと感じた。ウェアの貸与などがあると荷物も少なくできるのでありがたい。」

また、ウェルビーイングに対する関心は想定よりも高く、掘り下げた質問などにも答えられるようになる必要があった。即効性のある実感を持ち帰ってもらいやすいのでプログラムとして優れていると感じた。ならびに、1dayのプログラム設計では移動を考慮すると実質半日以下になってしまうため、1泊など滞在型のアプローチが必要だと感じた。

テストイベントの実施を受け、以下の内容にプログラムをブラッシュアップした。

表5 テストイベントを受けて改善したワーケーションプログラム

構成要素	日本語解説	プログラムで獲得する体感
Positive Emotions	喜び・平安・希望・畏怖などの感情を持つ、感じる	農作業で汗を流す、雄大な自然への畏敬の念を抱く
Engagement	活動や世界そのものに深くかかわる	適切な難易度の未経験の作業に深く集中する
Positive Relationship	愛情・サポート・理解のある人間関係の中にいる	一緒に作業に取り組む仲間と協力し信頼関係を築く
Meaning	自分より大きな何かに奉仕するという感覚を持つ	福祉連携、気候変動対策など中長期のビジョンに触れる
Accomplishment	熟練・遂行能力をもっているという感覚を持つ	作業進捗を目の当たりにする / 最終成果物に触れる

・ DAY1 (14:00 - 18:00)

時間	プログラム
- 14:00	農園集合、PERMAの測定（※希望者は前入りしてWork可能です。）
14:00 - 15:00	農園全体案内 / 農福連携や気候変動に関する研究の紹介（P/M）
15:00 - 17:30	農作業（P/E/R）
17:30 - 18:00	作業振り返り、PERMAの測定
18:00 -	自由時間。希望者は温泉・食事に案内。希望者はWork可能です。（R）

・ DAY2 (6:00 - 12:00)

時間	プログラム
6:00 - 7:00	霧深い農園を案内、朝採れ苺を食す（P）
7:00 - 11:00	農作業（P/E/R/A）
11:00 - 12:00	PERMAの測定と体感を文字に起こし学びをリキャップする。
12:00 -	写真撮影をして、解散。希望者は温泉・食事に案内。希望者はWork可能です。（R）

▼写真7 テストイベント時の様子





▼写真 8 テストイベント時の気候変動に関する研究の紹介資料

気候変動と農業

The Good Green Farms

二酸化炭素の排出削減が急務とされる中、これら温室効果ガスが引き起こす気候変動そのものについて知られる機会は多くありません。気候変動によりどのようなことが起きるのか - 表出する環境課題と農業について、例えれば次のことが予測されています。

- 1 [1] 国連の報告によれば2030年までに淡水資源は必要量に対し40%不足すると予測されるなど、淡水資源の確保は差し迫った課題です。淡水獲得途である河川の決壊は気候変動の影響で降雨の頻度や強度が変化し、流量が不安定になっています。また毎年の降雪を地奥に蓄め、天然のダム機能をもたす降雪が減少し融雪時期も早まるため、利用可能な淡水の減少が予測されています。2022年にも既にインドやオーストラリアで気候変動による大規模な降雪の減少が問題となっています。農業用水は世界の淡水消費量の70%を占めるため、こうした状況はこれからの農業の存続に大きく影響します。
- 2 [2] 世界各地で起こる淡水資源の枯渇は砂漠化や塩害の原因となり、私たちの生産・生活可能領域を著実に狭めています。また、水不足が深刻な地域では農業用水や地下水共に含まれる塩分が地表に露出し、作物栽培のできない塩害化が進みます。国連大学の調査では既に世界の農地の1割が塩害被害を受けており、農業に適した土地の減少が懸念されています。
- 3 [3] 気候変動は淡水資源や農地の喪失だけでなく、産物、作物の品質にも影響を与えます。生育に適した温度帯を超るとる気温の上昇やその日数が増加することにより、産物そのものの品質が減少し、食糧生産を一層困難なものになっています。

2022 (C) BERRY. all rights reserved.

特殊ファイバーを用いた超省資源/閉鎖型垂直農法

The Good Green Farms

CULTIVERAの開発した特許栽培技術「Mistculture」は、植物が生かすために振り回されるも肥料の可能性に着目し、水や土の資源消費を抑えながらも、機能性（栄養価）が高く食味のよい作物を極小環境下で育てることを可能にする技術です。

Mistcultureで用いる特殊ファイバーの微細な穴を通る時、水はより小さい気化水分へ姿を変えます。ファイバーを循環することで「気化水分で満たされた空間」で植物を育てると、効率よく水分や栄養を吸収することのできる微細な毛根が発達します。

毛根は 温気中核とも呼ばれる微細な膜で、気化水分を吸収できる他、通常の膜では直接吸収することのできない物質も吸収するなど高い機能性を持ちます。膜の奥深くも自律的に上がるため、気化した少量の水分を効率よく吸収します。

また、土壌の代わりに空間で育てるため、土をほとんど消費しない栽培が可能です。流水・土壌の大量消費や汚染など 農業が抱える環境課題の解決が可能です。ここに独自開発のプログラムで灌水制御を行うことで、農業排水ゼロを実現しています。



効果

- 水使用量が従来農法の1/10以下
- 土壌や地下水の汚染原因となる農業排水ゼロ
- 土や肥料などの土壌資源もほとんど消費しない

2022 (C) BERRY. all rights reserved.

特殊ファイバーを用いた超省資源/閉鎖型垂直農法

The Good Green Farms

温度・湿度・日照など、気候制御のできる閉鎖型農場の技術により、気候変動により農業環境が厳しくなる中でも生産を続けることが可能です。また、世界的な農業過剰の不安や都市型・都市近郊農業を実現するためにも、農地の高さを利用する垂直農法 (Vertical Farming) を採用しています。

MistcultureとBERRYの農場/ノウハウを組み合わせることで、閉鎖施設という（従来農法に比べ）特殊な環境においても高品質な産物を生産しています。

さらに、光のスペクトルを高精度に最適化した独自のLEDや、新しい受粉方法など、品質向上・環境負荷低減のための研究開発を続けています。



閉 - 垂直農法により土地を効率的に利用。
 開 - MistcultureとBERRYのノウハウで高品質な産物を生産。
 閉 - 閉鎖環境のため季節や季節を選ばない気候変動時代でも栽培が可能。
 開 - 再生可能なエネルギーとの組み合わせにより、環境負荷を更に低減。
 閉 - 産物を等に最適化した独自のLEDや受粉方法など新しい技術も。

2022 (C) BERRY. all rights reserved.

▼表 6 PERMA の測定シート

	全くそう思わない	そう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらともいえない	どちらかといえばそう思う	そう思う	強くそう思う
	1	2	3	4	5	6	7
私は目的と意義に満ちた人生を自ら生きている。							
私には協力的で認めてくれる仲間がいる。							
日々の出来事に没頭したり興味をもったりしている。							
誰か他の人の幸せやウェルビーイングに能動的に貢献したいと思う。							
自分にとっての大切なこと（仕事や趣味）を十分に遂行する能力がある。							
私は良き人生を歩むに値する人間だ。							
自分のこれからの人生は明るいと思う。							
他の人からリスペクトされている。							

③ウェルビーイングプログラムのPR

InstagramにてウェルビーイングプログラムのPRにつながる広告を出稿した。問い合わせには繋がらなかったことを踏まえると、「ワーケーション」や「ウェルビーイング」というキーワードに興味、関心があるなかで、体験が具体的にイメージできることや他の体験プログラムとは異なる独自性を感じてもらいコミュニケーションが必要と思われる。

▼写真 9 Instagram 広告の画像



④オンラインイベントの開催

ウェルビーイングについて理解を深めるオンラインイベントを株式会社 YeeY と実施。イベントのターゲットとして、ウェルビーイングという言葉を知ったことはあるが、深く理解していない方に参加してもらい、理解を深めてもらうことを念頭に置いた。また、ウェルビーイングプログラム参加者の説明資料として活用できることや、ウェルビーイングプログラムの体験にもつながるような内容とした。

▼オンラインイベント内容

- ・ウェルビーイングとは
- ・幸せと仕事の関係
- ・ウェルビーイング×ワーケーションの取組

▼写真 10 オンラインイベントの様子

Wellbeing(継続的幸福)を高める5つの要素

PERMA Model

P	E	R	M	A
Positive Emotions	Engagement	Positive Relationships	Meaning	Accomplishment
ポジティブな(快適な)感情	主体的に関わる	よい人間関係	意義・意味	達成・熟練

マーティン・セリグマン博士 ペンシルバニア大学
Dr. Martin Seligman University of Pennsylvania @YukaShimada

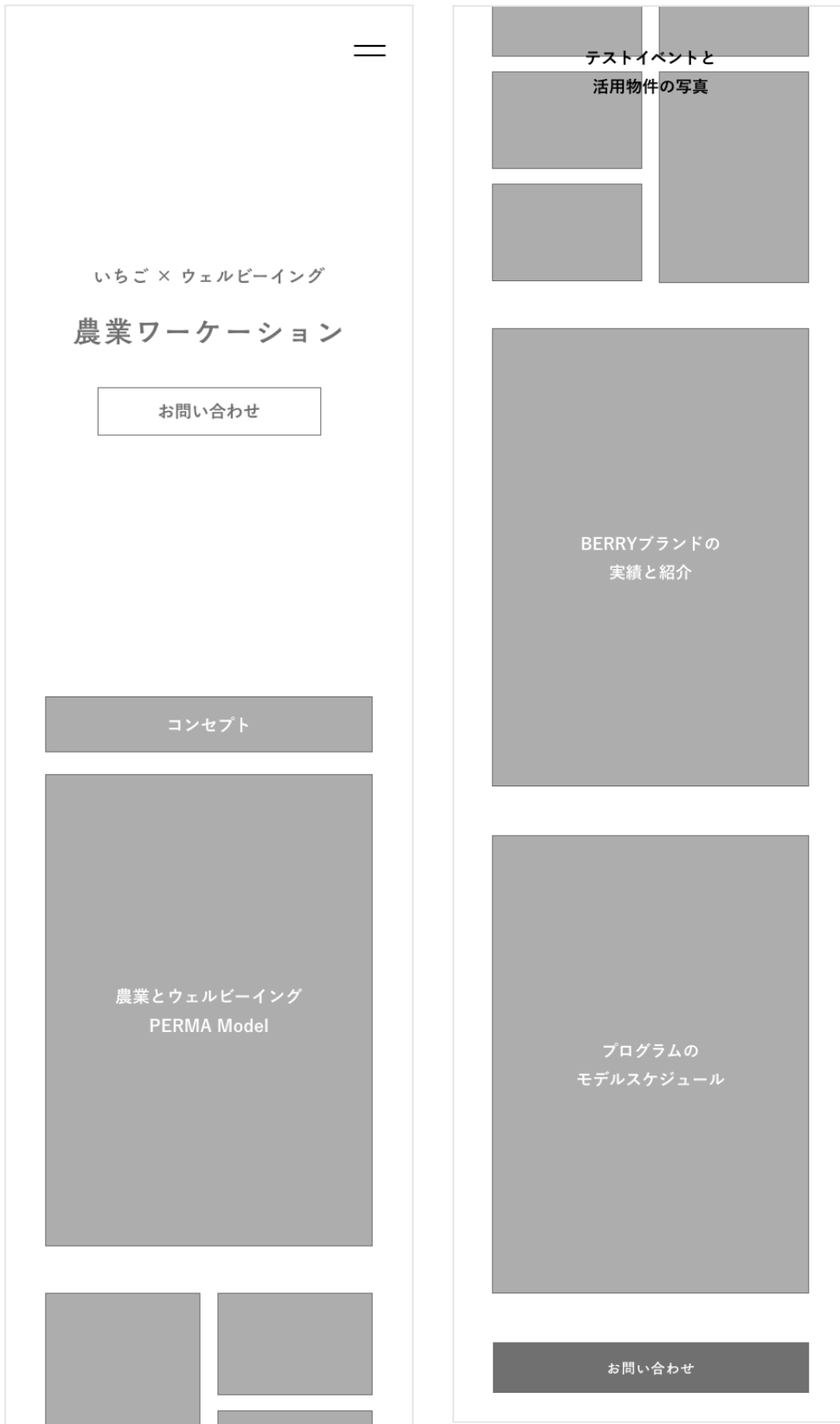
22段階の感情スケール

望む現実を創造	1	喜び・大いなる気づき・自信・自由・愛・感謝
	2	情熱
	3	熱意・やる気・幸福感
	4	ポジティブな期待・信念
	5	楽観
	6	希望
ニュートラル	7	満足 (ほっとした感覚、安心、安全、心地いい、よい気分)
	8	退屈
	9	悲観
	10	ストレス・いらだち・我慢 (短気)
	11	とまどい (圧迫感)
	12	落胆
	13	疑念
	14	心配
	15	非難 (自責)
	16	失望 (挫折感)
	17	怒り
	18	復讐心
	19	敵意 (憎しみ)・激怒
	20	嫉妬
	21	自信喪失・罪悪感・自己卑下 (無価値感)
望まない現実を創造	22	怖れ・苦悩・憂鬱・絶望・無気力

⑤サイト改修

- ①～④で実施したプログラムを公開するページを HP に追加し、公開予定。

▼写真 11 HP 制作時のワイヤーフレーム



(3) 成果

- ・ワーケーション施設の設計をもとに、1軒の空き家を改修した。
- ・ウェルビーイングプログラムの開発を完了した。
- ・ウェルビーイングについてのオンラインセミナーを開催し、HP上で公開予定

3. 評価と課題

- ・総じてワーケーションならびに、ウェルビーイングプログラムの足掛かりとなる開発を行うことができたと考えている。
- ・空き家のワーケーション施設としての利活用を行ったが、宿泊場所としての最低限の機能を有するだけの状態である。今後ワーケーション利用者を呼び込む際、施設単体としての優位性が高くないため、施設の魅力を軸とした訴求をするのではなく、ウェルビーイングプログラムを軸とした訴求を行う必要があると考えられる。
- ・天候不良によりテストプログラムが関係者での実施となったため、より多くの人にテストプログラムを体験していただき、プログラムの改善を進める必要がある。
- ・ウェルビーイングへの関心は想定していたよりも高く、ニーズを感じた。
- ・ワーケーションならびにウェルビーイングプログラムのターゲットの検証が必要である。
- ・プログラムの中に仕事をしたいニーズもあるため、事前のスケジュール共有と確認ができるとよりスムーズに効果の高いプログラムが実施できるのではないかと。
- ・農繁期と重なるとオペレーションの難易度が上がるので、農繁期前に実施→収穫期に成果としての苺を送るような流れがスムーズかもしれない。
- ・「ワーケーション」と「ウェルビーイング」は関心の高いキーワードであるものの、ユーザーに多くの選択肢の中から本事業を選んでもらうための工夫が必要だと感じた。
- ・ウェルビーイングプログラムは冬季の場合、積雪リスクがない時期に実施する。

4. 今後の展開

今後は、ウェルビーイングプログラムのテストイベントを継続して行うことでプログラムの磨き上げとオペレーションの確立を図ると同時に、ターゲットとニーズの検証を図っていく。ウェルビーイングプログラムのPRにおいてはプログラムの独自性を訴求していく。また、中長期での滞在や就労型での滞在中の需要もあると感じられることから、中長期・就労型のプログラム設計を実施し、利用者・交流人口の増加と空き家の活用を目指す。

■事業主体概要・担当者名			
設立時期	2017年2月		
代表者名	宮澤 大樹		
連絡先担当者名	宮澤 大樹		
連絡先	住所	〒518-0036	
	電話	080-1618-5059	
	メール	daiki@yujiya.co	
ホームページ	https://berryjapan.com		

※事業に関してご質問等がある場合は、上記連絡先にご連絡ください。